

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670800178
法人名	社会福祉法人 鶴寿会
事業所名	グループホーム ひまわり
訪問調査日	平成20年11月20日
評価確定日	平成20年12月23日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670800178
法人名	社会福祉法人 鶴寿会
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	〒899-0136 出水市汐見町89番地 (電話) 0996-67-5626・3187

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号
訪問調査日	平成20年11月20日

【情報提供票より】(平成20年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成11年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14人 非常勤 人 常勤換算 14人	

(2) 建物概要

建物構造	木造防火サイディング貼り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	11,700 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	9 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.8 歳	最低	81 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉井中央病院 福留歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海にほど近く、自然豊かな田園風景の中、広々とした敷地に特別養護老人ホーム、デイサービスと隣接して建てられたホームである。関連法人の母体は医療機関であり、入居者の健康管理は万全で安心して生活できる。年中行事が多く、地域の方々やボランティアの参加も多い。職員は全て常勤であり、入居者とともに穏やかな振舞の中で暮らしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善指摘により、あらたにホーム独自の理念が策定されている。運営推進会議も発足して2回開催されているが、さらに充実した運営のために2~3ヶ月毎の開催を予定している。重度化及び終末期についての指針が作成され、入居者及びご家族、職員へ提示されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義、目的を話し合い、全員で共有している。自己評価については管理者、ケアマネジャーが中心となり、職員の参加は十分ではない。各職員が自己評価に関わることにより、さらなる質の向上につながることを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	本年3月と6月に、市職員、地域包括支援センター職員、地域住民代表、家族代表が参加して会議が開催されている。入居者の状況及び行事の実施状況、評価結果などを報告し、意見交換がなされている。会議で出された意見は、ケア会議で検討してサービス向上に活かされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置している。面会時、職員側から積極的に話しかけて意見や要望を聞きだすように努めている。手紙でもその旨お願いしている。また、運営推進会議においても意見を求め、運営に反映させるように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	法人の運動会や夏祭り納涼大会には地域からの参加があり、中学・高校からの実習も受け入れるなど、様々な繋がりが生まれている。さらに近所を散歩する時など挨拶を交わして交流を深めており、地域防災協力会にはヘルメットや手押しポンプを寄付している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体の理念とは別に、地域密着型サービスとしての役割を職員全体で協議し、家庭的な環境の中で、その人らしく生活することを支える、ホーム独自の理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員の協議を経て作成されているので、日々の業務の基準となって認識されている。玄関に掲示され、重要事項説明書にも掲載されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人の運動会や夏祭り納涼大会には地域からの参加があり、中学・高校からの実習も受け入れるなど、様々な繋がりが生まれている。さらに近所を散歩する時など挨拶を交わして交流を深めており、地域防災協力会にはヘルメットや手押しポンプを寄付している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施する意義、目的をケア会議で話し合い、職員全体で共有している。外部評価で指摘された課題については全員で検討して改善されている。自己評価については管理者及びケアマネジャーが中心となって作成しており、職員の参加は必ずしも十分ではない。	○	職員一人ひとりが自己評価に関わることにより、さらなる質の向上につながることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年3月と6月に、市職員、地域包括支援センター職員、地域住民代表、家族代表が参加して会議が開催されている。入居者の状況及び行事の実施状況、評価結果などを報告し、意見交換がなされている。会議で出された意見は、ケア会議で検討してサービス向上に活かされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	同一法人の特別養護老人ホームで行われる入所検討委員会に、市の担当者が出席した際、ホームの諸問題を相談している。管理者(園長)は、長年にわたり福祉活動に携わっており、担当課のみでなく、市長とも福祉の在り方について直接意見を交わす機会を持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時に、暮らしぶりや健康状態などを報告している。面会の少ないご家族には、定期的に電話や手紙に広報「鶴だより」を添えて報告している。今後、利用料金引き落としのご家族へは利用明細書を送付する。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時、職員側から積極的に話しかけて意見や要望を聞きだすように努めている。手紙でもその旨お願いしている。また、運営推進会議においても意見を求め、運営に反映させるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全職員が常勤職員であり、この1年間は「退職者なし」である。退職者が出た時は、特養から馴染みの職員を配置するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画が作成されており、法人の研修会や施設合同の勉強会が開かれている。同じ内容の研修を2日間行い、全職員が受けられるような工夫も見られる。外部研修には偏りなく参加させており、研修後はケア会議で報告して、情報・知識の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームを訪問したり、出水地区内で年数回の勉強会を実施している。また、台風時の避難先としての相互協力について相談を受けるなどの取り組みも行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人及びご家族とお会いして情報を収集し、できるだけホームの見学を勧めている。必要な場合は、特養のショートステイを経験していただいて、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	できることの力量は伸ばし、できないことは少しずつ援助しながら、お互いに支えあい学びあうことが日常的に行われている。ともに料理の下ごしらえなどを行いながら、調理方法や野菜作りを教わっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望、意向をより多く把握できるように、入居者ごとの担当者を決めている。他の職員も日々の関わりの中で、意思を表出しやすいように努め、情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画担当者が本人、ご家族から要望を聞き取り、ケアの方向性を話し合い、その情報を基に全職員で検討会議を開いて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、定期的に見直しを行っており、ケアカンファレンスにおいて、記録を用いながら変更の必要性について検討している。本人の状態変化や内容変更の必要性がある時は、本人及びご家族を交えて現状に合った計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の受診や、協力病院の指示による他医療機関での特別検査の場合は、職員が送迎している。結果についてはご家族へ報告している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの入居者は協力病院にて受診しているが、本人及びご家族が希望する場合は、従来のかかりつけ医での受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化及び終末期に関する指針が作成されており、本人やご家族をはじめ職員に説明され、関係者間で方針を共有している。		指針の文書に説明と同意の確認欄を設け、方針の共有をより確実にすることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライドを傷つけないように意識の向上に努めるとともに、お互いを認め合い、優しい振る舞いの中で暮らしている。整理整頓が行き届き、記録等の個人情報は事務所に保管され、適切に取り扱われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の流れは決まっているが、それを無理強いすることはない。一人ひとりの意思を尊重しており、お化粧などにも時間を割くなど、それぞれのペースに合わせた柔軟な支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立づくりは特養の管理栄養士に協力してもらい、菜園で採れたものを加えることもある。調理の下ごしらえや配膳、後片付けなど、得意分野や力量に応じて職員と一緒にいき、同じテーブルで和やかに食事を楽しんでいる。必要な場合は、自然な言葉で介助がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決まっているが、その日入居者が希望する時間に入浴していただいている。入浴日の間隔が空かないように、タイミングや言葉かけを工夫して、一人ひとりに合った柔軟な入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や掃除、菜園での四季の野菜作りなど、得意な分野を活かしながら、楽しく過ごせる場面作りを行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節ごとの行事として、コスモスやツル見物、ぶどう狩りなどに出かけている。日頃は隣の特養に寄ったり、ホーム周りの散歩や防波堤から海を眺めたりして、自由な生活ができるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、鍵はかけていない。入居者が外出される時はさりげなく声をかけ、一緒に歩くようにしている。帰って来られたら「おかえり」と挨拶し、自宅であるという意識が高まるようなケアを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回、避難訓練を行っている。消防署の協力により、消火器の使い方や通報の手順、避難経路の確認なども行う。地域防災協力会や近隣の方々も参加される。蘇生術などは特養と合同で研修を受けている。次年度には、スプリンクラーの設置が予定されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士の協力で献立を作成しており、食事や水分の摂取量については、日々のチェック表にて管理して過不足の無いように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングルームには季節の花や行事の飾りつけがしてあり、明るく楽しい雰囲気が味わえる。他の共用空間も自然光が十分に入り、風通しも良好で清潔感がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、家具、洗面台は作り付けになっており、使い慣れた日用品や写真、花鉢などが持ち込まれて、居心地良く過ごせるような配慮がなされている。		